令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和８年度～令和17年度）案（概要）①

高校教育改革の背景

本県県立高等学校が、将来の人生設計を描き、自分らしい生き方（Well-being）実現に向けた、中学生にとって魅力がある学び場であるために、社会の変化、県民や地元産業界のニーズを見定めながら、生徒の意向や目的を大切にした視点で、本県高等学校教育を改革することが必要と考えます。

高校教育改革の必要性

①社会情勢の変化
変化が激しく、予測不能なこれからの社会において、その変化に対応し、自ら課題を発見し、解決に向けて取り組む力を身につける学びへの変革が必要です。

②生徒の多様化
多様化する生徒の学習ニーズや興味・関心に対応するために、教育活動の質の向上を図り、学びの幅を広げていくことが必要です。

③生産年齢人口の減少
生産年齢人口の減少が続く中で、高等学校においても、教育効果を最大限発揮できる適正な規模を維持しながら個々の能力を伸ばす、特色ある学校づくりを進めることが必要です。

基本方針案

県立高校がめざす新しい姿

魅力と活力あふれる「元気なふるさと鳥取」を実現するとともに、自分の夢や目標の実現に向けた可能性を広げるために「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造します

夢や目標をもって人生を切り拓く生徒の育成に向けて

方針１

生徒一人一人の資質・能力や可能性を最大限伸ばす学びを推進します。

めざす生徒像
- ○課題を発見し、コミュニケーションを通して協力しながら創造的に解決できる生徒
- ○デジタル改革が進むこれからの時代に柔軟に対応できる生徒
- ○自己の学びを評価、点検、コントロールしながら学び続ける生徒
- ○多様性、協働性、寛容性を身につけ、異なる考えや価値観を共有できる生徒

取組の方向性
- ・体験を伴うフィールドワークや探究的な学びの推進
- ・学習効果を高めるためのICT活用の推進
- ・グローバル社会を生き抜くために必要な力を身につけるための国際バカロレア教育手法の全県への普及・展開
- ・生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた学びの機会の設定
- ・通級指導の充実や、スクールカウンセラーなどの専門家と連携した支援体制の充実
- ・県外生徒募集を推進することで、多様性、協働性等を育む機会を創出　等

方針２

将来の地域を支える人材を育てるふるさとキャリア教育を推進します。

めざす生徒像
- ○ふるさと鳥取への思いを持ち、将来どこに住んでいても鳥取県を誇りに思いながら、自分の暮らす地域で活躍できる生徒
- ○自立し、自分らしい生き方を実現できる生徒
- ○未来の鳥取県を創造し、支えていくことができる生徒

取組の方向性
- ・地域のニーズや期待に応えられるよう、地域、地元産業界と連携しながら、基幹産業を支える人材育成
- ・生徒のまちづくりへの参画機会の提供
- ・積極的な地域貢献活動
- ・コミュニティ・スクールの充実・発展　等

方針３

様々な現代的諸課題に対応し、鳥取県や日本、世界に貢献できる力を育成する学びを推進します。

めざす生徒像
- ○持続可能な社会の創り手となるため、新たな価値観を創造することができる生徒
- ○豊かな国際感覚、人権感覚を備え、ダイバーシティの中で活躍できる生徒
- ○鳥取県の豊かな資源や環境を活かし、地域や世界の持続的発展に寄与できる生徒

取組の方向性
- ・国際機関や研究機関・企業等との連携により、地域、日本、世界の課題解決に向けた探究的学びの推進
  - （例）地域課題：中山間地域の店舗の閉店に対する研究　等
  - 日本の課題：少子高齢化問題　等
  - 世界的課題：地球温暖化に関する研究、食糧問題、海洋問題　等
- ・海外高等教育機関や異なる文化的背景を持つ人々との交流や連携の機会の設定　等

令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和８年度～令和17年度）案（概要）②

検討の観点

1 社会の変化に対応した学科、課程の配置

・生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性は多様化が進んでいます。それに対応するための幅広い選択肢を用意することや、きめ細かな支援策が必要であり、東中西部それぞれの地域に普通科・総合学科、専門学科の高等学校を設置し、特色ある学びを推進します。
・段階的に再編等を進めながら、生徒の将来につながる多様な選択肢が用意された、体験しながら成長できる教育環境を整備していくことが必要です。

普通
・国際バカロレア教育の推進
・スーパーサイエンスハイスクール
・単位制→専門科目履修拡大
・中高一貫校の設置検討
・データサイエンス

総合
・自己の在り方、生き方の探究
・専門家の指導による表現力育成プログラム
・自己実現のための多様な学びの選択肢
・地域資源を活かした学び

定時通信
・学び直しの機会の充実
・ICTを活用した遠隔教育
・体験的な学びの充実
・安心安全で居場所となる環境整備

専門
・専門性の高度化→マイスター制度
・スーパープロフェッショナルハイスクール
・普通科を加えた総合選択制
・専攻科の設置検討

農業
・スマート農業
・演習林を活用した林業実習
・JGAP・HACCPの取得
・スーパー農林水産業士
・和牛飼育

工業
・デジタル技術の活用による新しいものづくりの実践
・STEAM教育の推進
・スーパー工業士
・ロボット工学

商業
・ICTを活用したマネジメントの実践
・観光産業振興への対応
・STEAM教育の推進

水産
・実習船を活用した調査研究
・航海実習
・スーパー農林水産業士

家庭
・ライフプランニングによる生き方探究
・調理師養成

情報
・プログラミング、IoT開発
・情報セキュリティ
・情報デザイン

福祉
・福祉実習
・介護福祉士養成

社会とつながる体験的な学び
・体験に重点を置いた授業や課外活動の充実
・様々な分野を体験できる総合選択制体験型高校の設置

専門＋専門　普通＋専門　総合＋専門

世界
グローバル化に対応した学び
・海外の大学との連携
・国際交流の推進
・SDGｓの視点を持った教育の充実

地元産業界
企業、大学等と連携した学び
・新しい技術への対応
・起業家や経営者の視点を養う取組の推進
・高大連携による探究的な学びの充実

地域
学生寮等の整備
・特色ある高校に通いたいと思う県外生・県内生が安心して生活できる住環境の整備
・地域と連携した寮運営、寮整備

県立高校

大学
高校魅力化コーディネート機能の充実
・高校と地域・関係機関をつなぎ、学びの実効性を向上
・高校の魅力を発信
・地元自治体が配置する魅力化コーディネーターの総括

コミュニティ・スクール等を活用した地域と連携した学び
・学校と地域が互いに連携した魅力と活力ある学校づくり、地域づくり
・地域をフィールドとした探究的学びの充実
・ふるさとキャリア教育の充実

中山間地域での学び
・地域の特性を活かした魅力化の更なる推進
・地域と連携した探究学習の深化
・地域活動等への参加による地域活性化への取組
・ネットワークの構築による魅力化の推進

幅広い学習ニーズに対応した学び
・特別な支援が必要な生徒への対応
・ヤングケアラー、不登校生徒等様々な環境の生徒への対応

新たな産業（時代の変化）に対応した学び
・宇宙産業への参画
・メタバースの活用
・脱炭素社会への対応
・AIの活用
・DXへの対応

未来

専門機関

GIGAスクール構想に対応した学び
・オンライン（遠隔授業）等による他校、他地域や海外の学校等との協働・交流
・ICTを活用した探究的学びの充実

令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和８年度～令和17年度）案（概要）③

2 必要な環境整備

（１）生徒の興味関心を引き出す教育を実践する教職員の育成

大量退職・採用の中、教職員には、指導力、技術力を継承していくことと、社会に開かれた教育課程の実現やGIGAスクール構想の推進等、新たな施策に取り組むことが必要です。

取組の方向性
・個々の教職員の資質・能力の向上を図るための研修の充実
・働き方改革を推進し、授業等生徒と向き合う時間の充実　等

（２）ICT教育環境の整備

生徒がICTを活用して主体的に課題に取り組むためのスキルを身に付けるために、指導する教員も、効率的、効果的なICT活用による指導スキルを磨き、教育効果を高めていくことが必要です。

取組の方向性
・大容量高速通信網への接続等、設備の充実
・１人１台端末のBYODへの発展　等

3 今後の特色ある新しい高校の在り方

平成（1989年）以降の本県中学校卒業者数は、平成元年3月の9,595人をピークに減少傾向が続いており、令和5年3月は4,929人とピーク時からおよそ半減しています。さらに、令和17年3月の中学校卒業者数は約1,000人（約20%）少ない3,988人と見込まれています。（※令和4年5月1日時点）

この中学校卒業者数の減少に対して、今後も学級減で対応していくと、学校の小規模化が進みます。

学校が小規模化することは、生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導ができるなどのメリットがある一方、生徒が選択できる科目数が少なくなったり、多くの友人と切磋琢磨する機会を作ることが難しかったりするなどのデメリットがあることから、教育目的や地域性、地理的環境等を考慮した上で教育効果が最大限発揮できる特色ある新しい姿の学校を設置するため、再編・統廃合も含めて段階的に計画を策定することが必要です。

学校の小規模化

＜**メリット**＞
・生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導ができる。
・学校施設をひろく、余裕を持って使用することができる。
・小規模の学校を希望する生徒のニーズにこたえることができる。
・特に中山間地域の高校の場合、高校の存在自体が地域活性化の核となっている。

＜**デメリット**＞
・教職員数が減少し、生徒が選択できる科目数や部活動数が限られる。
・学校行事の企画・運営、各種会議への参加等、業務の多忙化が想定される。
・多くの友人と切磋琢磨し成長する機会を作ることが難しい。
・小規模であっても、学校運営のための人件費、環境整備等の一定以上の財源が必要となる。

一定規模（１学年５～７学級）程度の学校

＜**メリット**＞
・様々な専門性をもった教職員数が確保でき、生徒が選択できる科目数や部活動数が多い。
・多くの友人と切磋琢磨し、成長する機会を得やすい。

＜**デメリット**＞
・教職員が一人一人の生徒へ関わる時間が短くなる。
・施設設備の利用に制約が生じる場合がある。

方針を実現するために

取組の方向性
令和８年度から令和12年度までを前期、令和13年度から令和17年度までを後期とし、まずは各校の特色化をさらに推進し、育成したい生徒像を明確化したうえで、適正な学校規模及びその配置について検討し、計画を策定します。

※特色化を図るために必要な学校規模を構築する方法としては、以下の４つの方法が想定されます。
○再編・統廃合・分校化　○学級減　○学級定員減　○県外募集

※生徒一人一人の興味・関心の多様化が進む中において、幅広い選択肢を用意した学科を設定するため、県内生活圏域の全体的な維持・発展を考慮し、専門的な技術を学ぶ学科においては、入学者数を超える定員数を想定しています。

前期（令和8年度～令和12年度）

各校の特色化をより推進し、主に中山間地域の学校や地域における人材育成を図るための専門高校についての整理、再編などを検討し、より専門性を高度化する方向

後期（令和13年度～令和17年度）

前期の対応以降の社会情勢等の変化を踏まえて、東中西部各地区の高校の整理、再編等により特色ある新しい姿の学校の設置を検討する方向

新しい姿の高校づくりにあたって（規模、配置）

○東中西部にそれぞれ商業、工業・情報、農業・水産、家庭・福祉の分野をそれぞれ学べる高校を設置し、全県的な普通科・総合学科と専門学科の比率については現在の概ね65:35を目安とする。

○本県ならではの資源を活かした特徴的な学科（コース）は設置を継続する。

○普通科を加えた総合選択制高校の設置や、普通科において農業や商業などの専門科目を履修できるカリキュラム編成を検討する。

○市部には大規模私立高校が配置されている中、県立高校を小規模化した場合、県立高校全体の活力低下を招くことが危惧されるため、現在の学校規模を維持するなど一定の配慮が必要。

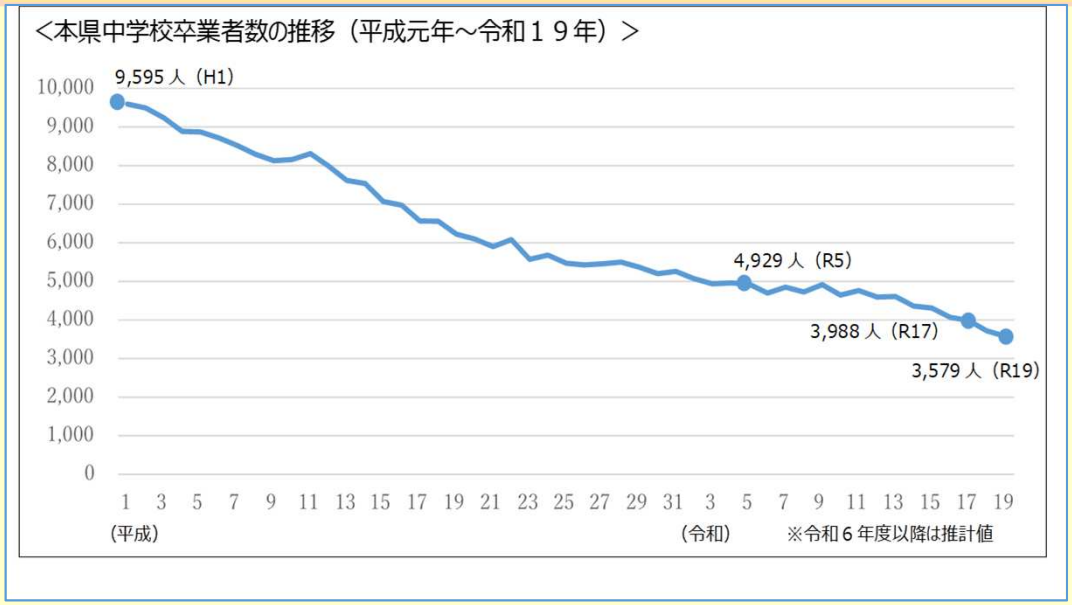
○中山間地域の学校は、地元自治体等地域との関わりを考慮したうえで、近隣に他の高校がない等、地域における学校の役割が大きい場合には、１学年あたり２学級以下の学校規模であっても小規模校として設置するとともに、次の取組を実施する。
・地域外から生徒を呼び込むことのできる特色あるカリキュラム編成を検討する。
・地元自治体等と協力した学生寮の整備を図る。

○１学級あたりの定員数について、特に専門学科と中山間地域の高校では、環境や学習内容等をふまえた柔軟な定員設定を検討する。

令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和８年度～令和17年度）案（概要）④

参考資料

鳥取県の今後の生徒数推移



鳥取県における近年の入試倍率（最終志願倍率）

	普通 理数	農業	水産	工業	商業	家庭	情報	福祉	総合	計
R5	1.04	0.51	0.56	0.60	1.08	1.03	0.89	0.53	0.65	0.91
R4	1.06	0.57	0.66	0.71	0.95	0.96	1.03	0.55	0.68	0.93
R3	1.05	0.64	0.58	0.77	0.87	1.06	1.05	0.70	0.74	0.93
R2	1.04	0.67	0.84	0.87	0.81	0.88	1.27	0.58	0.73	0.94

鳥取県の全日制高校における学校規模の推移

	H11	H12	H13	H14	H15	R5
東部	10校 66学級	10校 65学級	**9校 61学級**	9校 61学級	9校 58学級	9校 40学級
中部	7校 33学級	7校 33学級	7校 31学級	7校 31学級	**5校 26学級**	5校 18学級
西部	11校 54学級	**10校 52学級**	**9校 49学級**	9校 49学級	**8校 46学級**	8校 39学級
全県	28校 153学級	27校 150学級	25校 141学級	25校 141学級	22校 130学級	22校 97学級

鳥取県の中学生の傾向

※令和４年度高等学校教育改革に関するアンケート（高等学校課）より
（県内の中学校３年生（義務教育学校９年生）対象）

あなたは進学先での学習についてどのようなことを期待しますか。（２つ以内で回答）

	上位５項目	割合%
ア	大学進学等や自分がつきたい職業に必要な知識や技術を身につけたり資格が取得できたりすること	69.3%
イ	自分の趣味や関心のある分野の授業を選んで自分の時間割が作れること	41.4%
ウ	少人数ではなく、たくさんの生徒で学べること	18.1%
エ	たくさんの生徒とではなく、少人数で学べること	8.7%
オ	国や海外の関連機関、大学等と連携したり、協力を受けたりして学べること	8.3%

あなたは自分の進路希望を実現するために、進学先（高校、高専など）ではどのような学科で学んでみたいと思いますか。（２つ以内で回答）

	上位５項目	割合%
ア	普通学科－国語、英語、数学など普通教科を中心の学び	60.0%
イ	わからない、まだ決めていない	15.2%
ウ	総合学科－普通教科や職業教科の中から、興味・関心や進路に応じて選択する学び	15.1%
エ	工業学科－ものづくりの知識や技術などの学び（総合工学科を含む）	12.0%
オ	情報学科－プログラムの作成やソフトウェア活用、情報技術などの学び	8.5%

進学先（高校、高専など）を卒業した後の進路として、今のあなたの気持ちに最も近いものはどれですか。（１つ回答）

	上位５項目	割合%
ア	大学（４年制）への進学	36.5%
イ	わからない、考えていない	29.9%
ウ	専門学校、各種学校への進学	14.9%
エ	就職	14.2%
オ	短期大学への進学	4.2%

あなたは中学校または義務教育学校を卒業した後の進路を選ぶ時にどのようなことを大切にしますか。（２つ以内で回答）

	上位５項目	割合%
ア	将来の夢や希望がかなえられるかどうか	45.8%
イ	自分が学びたいことを学べるかどうか	35.0%
ウ	入試で合格できそうな学校かどうか	27.6%
エ	大学等へ進学するための力がつくかどうか	23.3%
オ	やってみたい部活動があるかどうか	16.6%